

平成29年度 第1回がまごおり協働まちづくり会議要旨

日時 平成29年5月24日（水）

午前10時～11時30分

場所 601会議室

1 開会

2 議題

(1) 会長、副会長の選任について

委員の委嘱

会長の選任（和泉会長）

副会長の選任（金子副会長）

各委員の自己紹介

(2) 報告事項

○事務局より報告

平成28年度第5回のまちづくり会議要旨説明

- ・ワーキング会議での意見のまとめ。
- ・フルモデルチェンジには至らず。はじめの一步部門で随時募集を実施する。
- ・調査・研究部門として、はじめの一步部門に、先進地視察費用（5万円）を設ける予定だったが、再考の指示を受け、実施には至っていない。

○委員意見等

- ・ワーキングの結果を反映させるべく議論を進めてきたが、至らない状況であり、継続的に会議で審議して進めていくべきである。
- ・先進地域視察は、ボランティアグループが先進的な活動を見ることは、団体活動に非常に有益であると考えるので、実現に向けて工夫していく事が必要だと考える。
- ・多くの団体が助成金の応募に続いていくことも考えなければならない。
- ・モデル事業は、従来は自分たちのフィールド内での展開であったが、昨年度はより広げた事業を行った。成果が即出るものと、後から出てくるものがあり、今まで行ってきたモデル事業とその成果を精査することも必要である。
- ・市民がまちづくり推進の意識が高まるように取り組んでいくべきだと思う。
- ・モデル事業でコラボを実施したところ、気づかなかったことや矛盾点などが見えてきた。市の複数の課と繋がったことが有益であった。
- ・まちづくり事業の中に、子どもたちを巻き込んだことを入れていきたい。
- ・小さい声でも拾えるような、また、若者をもっと組み入れていきたい。
- ・同じ趣旨で行う組織があれば、連携をつなぐことが大切である。

○まとめ

- ・委員の意見をまとめると以下のとおり。

(1) まちづくり会議や助成金のPRについて

(2) 互いの団体の関係作り

1) パートナーシップ (強い関係)。一緒に同じことを行う。

2) 情報交流 (弱い関係) 情報交流に加え人的な交流も含む。

- ・ 次回以降、PR問題、関係作りの問題を会議内で議論していきたい。
- ・ 助成金事業は10年経ったが、単発と継続、スタンスの違いなどもあり、すべてにおいて統一して関わっていくのは難しいと感じている。テーマ型といわれるNPOの活動と、地縁型といわれる自治体の活動を連携させて新しい成果を出していくことが、全国的なテーマとなっている。

(3) 市民企画公募まちづくり事業助成金「はじめの一步」随時募集について

○事務局より資料4について説明

- ・ 応募期間を、6月23日から11月15日とさせていただきたい。
- ・ 審査員は、和泉会長、酒井委員、行政より1名の計3名で、書類と面接審査を行い、速やかに決定する。

○随時募集にした経緯の説明

- ・ ワーキング会議で、はじめの一步部門は、「とっかかり」のため随時募集すると決まったため。審査方法は今までと同じ。募集要項の一部を修正する。
- ・ まちづくり助成金のほとぼしる情熱部門が大きな核となっているが、はじめの一步はとにかく思いついたらすぐにできるようにというのが、そもそもの考え方であり、それを年度単位にしてきたことが、応募件数の減少にも繋がっていたと思われる。

○委員意見等

- ・ 提出から審査、決定までどの程度の期間になるのか。
⇒ 最長で1ヵ月半。なるべく早い対応をするよう調整する。
2月募集、4月実施の応募は従来どおり。応募の幅を広げる趣旨。
- ・ はじめの一步部門は、随時募集部門と定期的な募集部門の2つ、ほとぼしる部門は定例の1本のみということで3つのものが存在する。
- ・ はじめの一步を導入した際、当初は書類審査だけであったが、その後、面接を導入してその団体の情熱を感じて審査する形に進化してきた。少しでも今までチャレンジしたことが無い方がチャレンジできる工夫を模索すべき。

○結論

- ・ 初めての取り組みは進めてみて、不都合があれば修正を考えていきたい。
- ・ 募集要項どおりに進めていくこととする。

(4) モデル事業について

○事務局より資料5について説明

- ・ 予定実施団体は蒲郡市拾石町内会、地区防災計画作成に向けた地域の取り組みをテーマとして実施を想定。
- ・ 社会実験として、(1) ハザードマップをベースとした防災マップのリニューアル、(2) 避難訓練の実施及び避難所運営の練習 (3) 自宅避難者、車生活者への対応、取り組み、

また塩津地区全体による教養としての座学、(4) 情報共有を促進するための勉強会、を検討。

○会長意見

- ・内閣府から各自治体に対して地区防災計画を作るようトップダウン的な要請があるほどの非常に重要な課題である。しかし、トップダウンでは難しい内容であり、その地区の住民が自主的に防災計画をまとめるべき。拾石地区で行う地区防災への取り組みが、真のモデル事業になると考えている。

○委員意見等

- ・この事業は、何を他の地域の協働のモデルとするかが明確には見えづらい。この事業を次にどのように活かされるということが言えなければ、協働としてのモデルをどのように持つのか、説明ができない。
⇒拾石町は蒲郡市内全域でも、防災訓練に力を入れている。自主的にハザードマップも作成しており、モデル事業では、プロの視点からのアドバイスを受けて完成する。ハザードマップ、防災マップ、避難所開設運営マニュアルを作成し、他の自治会にもサンプルとして提供することを想定している。
- ・協働モデルとしての捉え方は、行政が、自治会、NPO、行政、教育機関（大学、小中学校など）と一緒に実施していく事業であると認識すべきである。
- ・運営マニュアルの中に、協働の相手としてあげられる団体の紹介なども必要である。従来の防災モデルの設定では、マニュアルも「進んでいるからできる」と考えられてしまう。どの自治体でも実施できるような協働のモデルを提示していくべきである。
- ・モデル事業は、団体意外の人も見学できるか。自身の地区からも見学を希望。
⇒できる。
- ・地域だけで行うのではなく、他の地域の人にも公開していくことが大切。
- ・いろんなところに情報発信をしていくことは、モデル事業にとって大きな意味を持つ。PRや情報の流通を積極的に行うのは大きな意味を成す。情報発信を、このまちづくり会議からでもどんどんしていくことが大事と考える。
- ・地域活動は、とても地道に進めていくべきもので、難しい。防災は何から取り組んでよいかわからない。
- ・地域行政は、1～2年で変わってしまう。草の根のつながりが必要と考える。

○まとめ

- ・トップダウン的に地区計画を作っても、全然動かないと役に立たない。これまで地域防災計画の中でもうまく動いていないケースが多い。地域住民が意識を持つためにも、まず興味を持った人から行ってもらいたい。そこから口伝えに広がっていく。このモデル事業は、みんなで見て学ぶということが出来るひとつのモデルであるといえる。
- ・協働的なものと防災的なテーマとのバランスが難しい。通常は、委員の中からこの防災計画を提案されるのだが、拾石町から当初出されたものを既にバージョンアップしてある。
- ・この協働のまちづくりというのは見えていない価値をみんなで気づいてどう共有するの

か、どう未経験な分野にチャレンジしていくのかを考えたとき、特に防災については伴走者が必須である。

- ・事業は拾石地区で実施するが、拾石地区の情報だけでは乗り切れないことを住民に気づいていただくことが必要。そのため、中学校区で実施し、広く情報を共有することとした。また、女性的視点取り入れ、女性団体との意見交換なども必要と考える。ただし、過度の負担をかけて、自治会が空中分解してしまうことは避けなければならない。

○結論

- ・この事業を平成29年度のモデル事業として容認する。

○補足

- ・事業途中で委員の意見をもらうことも必要。拾石町区にも会議に出て意見交換をしてもらいたい。
- ・自助、公助、共助のうち、自助と共助についてはどうやっていくのが地区防災計画の柱となる。共通の情報を持つことが原則であるため、情報はオープンにしていくべき。自助のため、共助のためにやるべきこと、さらに足りなければ公助でやっていくことが、地区防災計画の柱になってくる。
- ・情報共有は非常に重要。塩津地区実施事業だが、見学はしてもらおうべき。

(5) その他について

○事務局より説明

- ・平成29年度のまちづくり事業の助成金の決定について、資料6で説明。
要約と進捗状況。

○小江まちカフェ・・・10万円（はじめの一步部門）

小学校と地域共同の畑作り。地域の学校にある畑を、地域の高齢者の力を借り子供達と一緒に畑作りを行うことにより、学校と地域と大人と子供の顔つなぎ活動を展開する事を目的とする。

○上区元気なまちづくり実行委員会、元気になる体操・・・10万円（はじめの一步部門）

健康づくりリーダーの指導の下、元気になる体操を行い参加者が自発的に体操を続け、生き生きとした高齢者を増やし、地域の絆を強化する事業。

○地魚普及実行委員会、聞いて知る、食べて知る、蒲郡の魅力ある魚達

・・・10万円（はじめの一步部門）。

親子でお魚マイスターの講座とプロの料理人の指導の下、地元のお魚体験を行い、海のまち蒲郡の誇りと愛着を育む事業。代表が三谷水産高校の卒業生で、校長先生の教え子である縁で三谷水産高校の調理室を借りることができた。

○コミュニティデザイン。一人親家庭に心のゆとりを届けます。

・・・7万円（はじめの一步部門）

一人親家庭であることへの悩みや苦労をもつ親同士で、出会いや情報交換の場を作り日頃の不安を解決するコミュニティの創造を目指す事業。母子家父福祉会という団体と情報交換を兼ねてマッチングを行っている。

○特定非営利活動法人オアシス。国際交流を足場にした多文化・多様性交流事業（ほとぼしる情熱部門）・・・37万円

カンボジアとの支援活動10年目の節目の記念事業として相互交流の質を高め、各種交流事業に参加された方同士を繋ぎ、交流のネットワークの幅を広げ、多様な人たちを育成していく事業。

○蒲郡花フル会。花はまちを作り、未来へと（ほとぼしる情熱部門）

・・・45万円の事業です。

従来 of 事業に加え、花の講演会やまちづくり花座談会を定期的 to 開催。他世代 of 支援、ネットワークにより花を用いたまちづくり活動 of 輪を広げ、将来を見据えた協働 of まちづくり of 方法を探る。

・今後のまちづくり会議 of 進め方について

補助 of 制度について、内容を精査して矛盾が生じている場合には必要に応じて改正をしていきたい。また、決定後に再考にならないよう、調整しつつ、ワーキング会議を設けて検討を重ねて会議に諮る形式で進めていきたいと考えている。

○補足

・モデル事業について、今年度は委員が入っていないため、必要 of 都度オブザーバーで来ていただいて、進捗状況を話していただきたい。

・今回の会議 of 内容を、拾石 of 木俣総代に聞いてもらう。

3 その他

次回開催について